

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く (54) (HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(54)—

1. 始めに

前報(53)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回もピアノ協奏曲です。

ドイツグラモフォン LPM 39113

モーツアルト ピアノ協奏曲 26 番

ピアノ協奏曲 12 番

ゲザ・アンダ (ピアノ)

ゲザ・アンダ指揮カメラータアカデミアザルツブルグモーツアルテウム

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

ドイツグラモフォン盤ということで、TELDEC、逆相、第4時定数 High で聴いていきます。

モノラル盤で、レンジも広くはありませんが、ゲザ・アンダはピアノの吟遊詩人と称されただけあって、過剰な表現は避けつつも楚々と歌い上げています。

カメラータアカデミアザルツブルグモーツアルテウムも、弾き振りのアンダの指揮の下、モーツアルトを主に演奏するオーケストラらしく、まとまった演奏をしています。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、Crystal E の導入の交換などの総合的な効果として、モノラル盤ながら、アンダとカメラータアカデミアザルツブルグモーツアルテウムの詩情に富んだ演奏を聴くことができます、

以上